

東北農業経済学会 Newsletter ◆ 2019 春号

宮城大会の開催について

2018/19年度の研究大会は、下記のように日本農業経営学会とのジョイントで宮城県仙台市において開催されます。本学会関連イベントは9月4日(水)～6日(金)です。詳しくは後日送付される大会案内をご覧ください。なお、最新版は学会ホームページに随時掲載しますので、ご確認ください。多数のご参加をお待ち申し上げます。個別報告およびエクスカージョンにもぜひ積極的にエントリー下さるようお願いいたします。

【日程】

◆東北農業経済学会

- 9月4日(水) 午前: 学会誌編集委員会、学会賞選考委員会、役員会
午後: 個別報告
- 9月5日(木) エクスカージョン(津波被災地の新たな農業を対象: 日本農業経営学会と共催)
- 9月6日(金) 大会シンポジウム(兼日本農業経営学会地域シンポジウム)・総会・懇親会

◆日本農業経営学会

- 9月7日(土) 大会シンポジウム・総会・懇親会
- 9月8日(日) 個別報告

【会場】 東北大学青葉山キャンパス(仙台市) ほか

することを目的に、東北農業並びに農業経済学に関する顕著な業績に対し、東北農業経済学会賞を授与しています。2018/19年度の学会賞候補者の推薦を下記により受け付けます。一般会員からの推薦も受け付けることになっていますので、積極的に推薦して下さるようお願いいたします。

1. 学会賞の種類: 学術賞、奨励賞、実践賞
2. 候補者の要件: 学会賞受賞者の資格は原則として東北農業経済学会の会員とする。また、実践賞の受賞者は普及指導員、営農指導員、農業者(農業法人を含む)、関連機関職員等東北農業の発展に貢献し得るすぐれた実践を行った者及びそれを記録した者とする。但し、奨励賞の受賞者は原則として40歳以下の会員とする。
3. 学術賞、奨励賞の対象とする研究業績は2016年4月～2019年3月末日までに刊行されたものとします
4. 提出書類: ①推薦書(1部): 学会賞事務局にご連絡いただければ、用紙等をお送りいたします。また、学会ホームページからも入手できます。
②関係資料(9部、コピー可): 推薦書で参照される著書や論文等の主要な業績
5. 提出先:
学会賞選考委員会事務局
〒020-0198 盛岡市下厨川字赤平4
農研機構東北農業研究センター
生産基盤研究領域 宮路広武
TEL 019-643-3494、E-mail: hirotake@affrc.go.jp
6. 提出期限: 2019年6月28日(金)

2018/19年度

学会賞候補者の推薦について

本学会では、東北農業の発展と農業経済学の発展を期

2019/20年度研究助成の募集

当学会では、若手研究者の育成を目的として研究助成事業を行っています。この度、2019/20年度の研究助成を募集します。応募要領は以下のとおりです。

1. 応募資格：助成申請時点で本学会会員である大学院生（オーバードクターを含む）ならびに農業改良普及指導員等
2. 助成額：1件当たり10万円程度、総額20万円以内で毎年2件程度
3. 応募方法：所定の申請書（事務局にご連絡いただくか学会ホームページ <https://aestohoku.jimdo.com/> からダウンロードして下さい）にご記入の上、下記学会事務局に提出して下さい。
4. 提出先：

〒980-0845
 仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
 東北大学大学院農学研究科資源環境経済学講座気付
 東北農業経済学会事務局 あて
 TEL：022-757-4209 FAX：022-757-4185
 Email：tohoku-agriecon@grp.tohoku.ac.jp
5. 提出期限：2019年7月26日（金）
 ※周辺の大学院生や普及指導員の方々にお知らせいただければ幸いです。

役員の変動

本学会で委嘱している役員（理事、監事、評議員、顧問）の一部に異動がありましたのでお知らせします。一覧は最終ページをご覧ください。

◆理事

須藤英弥（山形県立農林大学校→山形県村山総合支庁）
 佐藤和憲（岩手大学→東京農業大学）

◆評議員

成田智昭 → 小林 渡（青森県産業技術センター
 農林総合研究所）
 中村英明 → 今泉元伸（岩手県農林水産部）
 伊藤吉晴 → 高澤和寿（宮城県農政部）
 結城和博 → 卯月恒安（山形県農林水産部）

論文投稿の募集

編集委員会では、多くの会員の皆さんから論文投稿をお待ちしております。原稿は和文・英文どちらでも結構です。分量は印刷頁数で10頁が目安です。なお、詳細については学会ホームページの「会則・規程」の『農村経

済研究』投稿規程をご覧ください。

投稿先、問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会『農村経済研究』

編集担当理事 川島 滋和 あて

宮城大学食産業学群

〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立2丁目2-1

TEL：022-245-1257 FAX：022-245-1534

E-mail：kawashim@myu.ac.jp

会費納入・住所変更など

会費を滞納されていませんか？滞納が続きますと、会誌の送付を停止させていただくこととなりますのでご注意ください。納入は随時受け付けておりますのでお支払い願います。振込金額等のお問合せは下記学会事務局までお願いします。

なお、2019/20年度（2019年9月～20年8月）会費の請求書及び払込用紙は11月頃にお届けする予定です。よろしく願います。

また、異動や卒業・修了等により、住所や所属先等が変更になりましたら、学会事務局あてご連絡下さるようお願いいたします。

東北農業経済学会事務局

TEL：022-757-4209 FAX：022-757-4185

Email：tohoku-agriecon@grp.tohoku.ac.jp



編集後記

◆今年度の研究大会は日本農業経営学会とのジョイント開催となっており、開催時期も例年と異なりますのでご注意ください。多数のご参加をお待ちしております。◆本学会は他の学会に比べ割安な年会費で運営できていると考えております。「コスパ」という表現は適切ではないかもしれませんが、本学会の魅力の一つではないでしょうか。この魅力を維持していくためにも、ぜひ年会費につきましても、滞納なきようお願い申し上げます。後で払込みしようとしてそのまま忘れてしまうケースが多いようです。なにとぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

[次号2019年秋号は11月発行予定です]

■ ■ 会員のよこがお ■ ■



正木 卓 さん

まさき すぐる

弘前大学農学生命科学部 助教

北海道生まれ。2012年に北海道大学大学院農学院を修了し、北海道地域農業研究所研究員、北海道大学大学院農学研究院特任助教を経て、2016年より現職。

このコーナーでは、研究から一歩離れて、会員の人となりアプローチします。今回は、弘前大学の正木卓さんからお話をうかがいました。

——こんにちは。よろしくお願ひします。まず、普段持ち歩いている仕事道具を見せて頂きたいのですが、こだわっているものはありますか？

特別こだわったものは持ち歩いていませんが、調査・会議などで使用するためのノートとボールペンは持ち歩いています。私の場合、調査は農家や農協へのヒアリングがメインです。農家は水田、野菜、酪畜農家が多く、法人経営の調査も行っています。

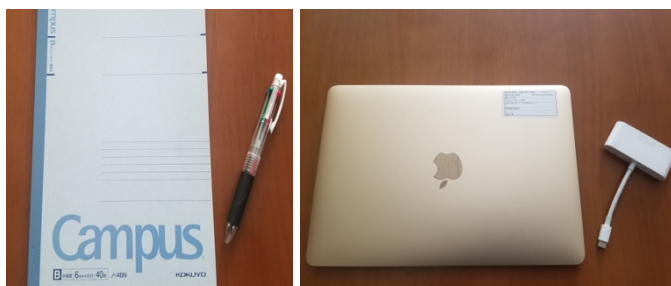
以前、調査ではICレコーダーを持ち歩いて録音していたこともありましたが、うまく録音できたためしがなく、結局、調査メモに頼るので最近は極めてシンプルなノートとペンだけにしています。

——ノートやペンに好みはありますか？

ノートは字がきれいな方ではないので、罫線の入ったノートを使って、後で見返した際にわかりやすいように書くよう心がけています。ペンは4色が好きです。複数のペンを持つ必要がないので。

——パソコンも入っているようですが。

ノートPCを持ち歩いています。ズボラな性格なので、調査した内容等はすぐ整理(メモ)しなければ忘れてしまうので、移動中や宿泊先で持ち歩いているPCで調査メモを作っています。



——今やヒアリングしながらパソコンに入力していく人もおられるようです。それにしても記憶が薄れないうちに移動中や宿で入力されるとは素晴らしい心がけですね！

そうは思っているんですけど、調査の後は飲食になってしまうことが多いので、メモ作成が翌日・翌々日になることも多々ですが…。最近はこのパターンが多くなってきました。反省してます。

——「聞き取り調査あるある」ですね。この写真(左上)も盃を持っているように見えますが、やはり仕事先での飲食は楽しみの一つになってますか？

楽しみの一つですし、調査先の方と率直に話を聞ける場として大切にしています。特に農協調査の際には、担当者の方と呑む機会が多く、青森に赴任してからは日本酒をいただくことが多いです。東北の酒は本当においしく感じています。

——アルコール注入後のお話が重要だったりしますもんね。論文に書けないお話も多いですが…。仕事すればするほど酒量が比例するように思いますが、健康面はいかがですか。

北海道から東北にきて2年半になりますが、実は血圧の薬も飲むようになってしまい、体を大事にしていかなければと痛感している毎日です。塩分も控えるように心がけています。なかなか実行できていませんが……。でも、自分としてはピーク時よりも血圧が安定してきたように感じています。気のせいかもしれませんが。

——そういえば秋田のある農家の方が酒の席で「献血で血を抜けば血圧は下がる」との持論を展開しておられました。いやいや、信じないでください(笑)。でも献血は大事ですね。お身体をいたわりつつ、お仕事がんばってください。ありがとうございました。

■主な業績

正木卓(2016)「改正農協法下における農協監査制度の課題と中央会の対応—北海道を事例として—」, 農業経済研究, 88(3), 293-298.

正木卓・坂下明彦・高恵探(2017)「北海道における協同組合のレーズンデートル」, 協同組合研究, 37(1), 13-23.

正木卓・泉谷真実・房家探(2018)「養豚経営における飼料部門の内部化と経済的効果に関する実態分析—青森県木村牧場を事例として—」, フロンティア農業経済研究, 21(1), 106-113.

(聞き手 秋田県立大学 中村勝則)

■ 会員のよこがお (特別編) ■



大鎌 邦雄 名誉会員

おおかま くにお

北海道函館市出身。東北大学名誉教授。2002/03～2005/6年 東北農業経済学会長。『行政村の執行体制と集落-秋田県由利郡西目村の「形成」過程』(1994年)ほか著書・論文多数。

特別編として元会長の大鎌邦雄先生にお話を伺いました。

——最近はどのようにお過ごしでしょうか？

大きくは二つのことをしています。一つは、学位を取得した元社会人院生や現役の大学院生と月2回ほど楽しみながらする勉強会です。村社会やその歴史に関する文献からはじめ、最近では皆さんの希望に応じて、アダム・スミス、マックス・ウェーバーなど新書判の解説本も読んできました。この次は柳田国男『先祖の話』を読もうかなと思っています。幅広いでしょう(笑)。

もう一つは、これまで研究対象としてきた秋田県の旧西目村(以下、西目)について、むらの形成過程から戦後までの歴史をまとめたいと思っています。

——先生は長く西目を調査されておりますが、どのような経緯があったのでしょうか？

30代半ば、農業総合研究所積雪地方支所に勤務することになり、その機会に地域社会の歴史を研究したいと考えました。調査地について上司に相談したところ、紹介されたのが西目でした。元農総研所長の神谷慶治先生が毎年町の「全村学校」で講演をなさっており、そのご縁がありました。役場や農協の職員の方々は大変好意的で、膨大な資料を自由に閲覧利用させてくれました。それから西目通いが始まりました。小型のコピー機を車に積んで。そうそう、コピー機のトナーは液体でした。知らないでしょ？その後、『西目町史』の編纂にも参加させてもらい、近現代史を担当しました。

——液体トナーですか！歴史を感じます。それら資料を元にどんな切り口でまとめられるのでしょうか。

齋藤仁さんのいわゆる「自治村落論」を基礎にした、村落自治と村行政との関連の歴史が中心テーマです。私が参加している農業史学会では、自治村落論は主として藩政村と集落の領域の関連という「領域論」の視点から検討されてきました。私は、「領域論」に加えて自治村落論の中心的な論点の一つである、行政権力との関係の中で、いかに集落の自治能力が形成されたのかを、歴史的、実証的に検討したいと考えています。西目

町史や本荘市史など、飛躍的に深化した近世の地域史研究から多くの示唆や刺激を受けています。秋田県だけでなく東北の地域史研究のレベルは高いです。

藩政初期の西目では、中世末期以来の在地土豪の支配に依拠して藩政村が形成され、その後の新田開発でその中に集落が形成されてきました。それら集落はやがて自立するようになり、藩も行政機構として認めるようになった。その集落は藩政村じゃないけども、藩行政権力との関係で自治能力を持つ「自治村落」となるのではないかとおもいます。これら「一藩政村多集落」における村落の形成過程をすこしでも明らかにしたい。

なかなか難しいです。まずは事実を整理しているところです。手元には、17世紀の新田開発、19世紀前半の商人請による干拓と開田、そして明治初期の地租改正と、三つの時期の土地所有の記録があり、それらをつなぎ合わせる作業をしています。いずれ戦中戦後期にも取り組みたい。ただ、年とともに仕事の処理能力が落ちているので時間がかかります(笑)。まあゆっくりやりたいと思っています。

——地域自治が空洞化している現代にも示唆的なご研究だと思います。最近の東北農業経済学会についてどう感じになっていらっしゃいますか。

そうですね、大会シンポジウムは東北農業に即してタイムリーなテーマを取り上げ議論していると思うので、今後も自信を持って続けて欲しいと思います。

感想を述べると、一つは、個別報告では東北という地域性に関する問題意識がやや薄れてきた感があります。留学生の発表が増えるなど、幅が広がっており、それらはいずれも貴重な研究ですが、他方では「東北」のアイデンティティも失わないでほしいと思います。

二つは、行政・農協等の関係機関や、普及員・営農指導員を含めた職員が果たしている役割・仕事にもっと光をあて、評価すべきではないかと思っています。学会ではそうした方々とお付き合いでき、私も多くのことを学びました。その際気づいたのは、彼らが地域農業振興に非常に重要な役割を果たしていることでした。

三つは、論文のテーマも多様になりましたが、少し残念なのは歴史研究が少なくなったことです。現在一つの集落に入ってじっくり調査研究するといったことはなかなか難しくなっています。しかし、こんな時代だからこそ、歴史的視点をもった研究が大きな意味を持つのではないのでしょうか。期待しております。

——貴重なお話、どうもありがとうございました。

(聞き手 秋田県立大学 中村勝則)

東北農業経済学会理事・監事・評議員・顧問

2019年5月23日時点 任期：2018年9月1日～2020年8月31日

役職	選出枠	担当	常務理事	県担当	氏名	所 属
理事	宮城	会長（研究助成担当兼務）	○	○	伊藤 房雄	東北大学
理事	秋田	副会長（学会誌担当）	○	○	鶴川 洋樹	秋田県立大学
理事	山形	副会長（企画担当）	○		角田 毅	山形大学
理事	農研	副会長（学会賞担当）	○		宮路 広武	東北農業研究センター
理事	宮城	学会誌編集担当	○		川島 滋和	宮城大学
理事	秋田	庶務担当	○		中村 勝則	秋田県立大学
理事	会長指名	事務局・会計担当	○		水木 麻人	東北大学
理事	会長指名	庶務担当			上田 賢悦	秋田県立大学
理事	会長指名	広報・Web管理担当			小山田 晋	東北大学
理事	会長指名	学会誌編集事務担当			藤科 智海	山形大学
理事	会長指名	学会賞事務担当			安江 紘幸	東北農業研究センター
理事	会長指名	電子ジャーナル担当			吉仲 怜	弘前大学
理事	青森			○	石塚 哉史	弘前大学
理事	岩手			○	新田 義修	岩手県立大学
理事	山形			○	須藤 英弥	山形県村山総合支庁
理事	福島			○	新妻 俊栄	福島県農業総合センター
理事	新潟			○	伊藤 亮司	新潟大学
理事	青森				泉谷 眞実	弘前大学
理事	岩手				佐藤 和憲	東京農業大学
理事	宮城				大和田 祥代	宮城県環境生活部
理事	福島				荒井 聡	福島大学
理事	新潟				清野 誠喜	新潟大学
理事	新潟				塩谷 幸治	中央農研 北陸研究センター
理事	農研				磯島 昭代	東北農業研究センター
理事	域外				椿 真一	愛媛大学大学院
理事	域外				福田 竜一	農林水産政策研究所
理事	域外				藤井 吉隆	愛知大学
理事	域外				宮入 隆	北海学園大学
監事					木谷 忍	東北大学
監事					柘植 徳雄	東北大学
評議員	青森				小林 渡	青森県産業技術センター農林総合研究所
評議員	青森				成田 高	青森県農協中央会
評議員	青森				山田 泉	青森県農林水産部
評議員	岩手				及川 浩一	岩手県農業研究センター
評議員	岩手				照井 仁	岩手県農協中央会
評議員	岩手				今泉 元伸	岩手県農林水産部
評議員	宮城				竹中 智夫	宮城県農協中央会
評議員	宮城				高澤 和寿	宮城県農政部
評議員	宮城				秋山 憲孝	農林水産省東北農政局
評議員	秋田				近藤 悦心	秋田県農協中央会
評議員	秋田				齋藤 正和	秋田県農林水産部
評議員	山形				後藤 雅喜	山形県農協中央会
評議員	山形				卯月 恒安	山形県農林水産部
評議員	山形				高橋 哲史	山形県農林水産部
評議員	福島				川上 雅則	福島県農協中央会
評議員	福島				沢田 吉男	福島県農業総合センター
評議員	福島				柏倉 一司	福島県農林水産部
評議員	新潟				小林 巧	新潟県農林水産部
評議員	新潟				高橋 尚紀	新潟県農協中央会
顧問					鈴木 良典	農林水産省東北農政局